

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	からだの仕組み I
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	柔整科
4. 対象学年・対象学期	第1学年 1部A・1部B 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	山道 祥郎
7. 授業形式	重要事項を要約した図のプリントを配布する。 OneDriveに、要約と暗記シート対応の演習問題をアップする。 解剖学アトラス、人体模型と学習ソフト（ADAM）などを適宜活用する。
8. 授業の目標	人体の構造を、その機能・発生・適応を考えながら理解できる。 柔道整復師として生涯にわたり研究心を失わず、常に最良の医療をめざして 向上し続けるための素養を身につける。 国家試験に必要な知識を整理して記憶する術を養う。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	毎回、教科書と配布するレジュメを持参すること。無遅刻、無欠席は当然である。 授業中は居眠りや妄想にふけらず、集中して理解し記憶するように心がけること。 解剖学名などは、初めはなかなか覚えられなくても、アトラスや模型をよく観察し、 学名の由来に注意して繰り返し努力を重ねると、容易に記憶できるようになる。 新しい用語に喜びを見出し、忘れることを恐れずどんどん覚えよう。
11. 教科書	『人体解剖パーフェクト事典』 伊藤正裕・中村陽市監修 ナツメ社 『解剖学 改訂第2版』 岸清・石塚寛編 医歯薬出版
12. 副読本	『ネッター解剖学アトラス 原書第6版』 F.H.Netter著 相磯貞和訳 南江堂
13. 推薦参考図書	『解剖実習の手引き』 寺田春水・藤田恒夫著 南山堂 『PT・OT基礎から学ぶ解剖学ノート 第2版』 中島雅美編 医歯薬出版

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第1章人体解剖学概説 A解剖学の意義と分類 (パーフェクトP28～33)	人体の運動における呼称（運動の形、関節運動の表示）
2	第2章運動系 A骨格系 1骨格系総論 (パーフェクトP54～65)	骨の数、骨の機能、骨の形状による分類、骨の構造（骨基質と細胞成分）、 骨層板の構造、骨の力学的構築
3	第2章運動系 A骨格系 1骨格系総論 (パーフェクトP58～61)	骨の連結の分類、関節の基本構造、関節の補助装置、関節の分類
4	第2章運動系 A骨格系 2骨格系各論 (パーフェクトP70～71)	脊柱と胸郭：椎骨の数、椎骨の基本形態、頸椎の基本形態、 環椎と軸椎、胸椎、腰椎、仙骨、尾骨
5	第2章運動系 A骨格系 2骨格系各論 (パーフェクトP72～73)	脊柱と胸郭：脊柱の靭帯、椎間円板、椎間関節、脊柱の弯曲、頸部の関節
6	第2章運動系 A骨格系 2骨格系各論 (パーフェクトP74～75)	上肢骨：上肢骨の構成、上肢帯（鎖骨と肩甲骨）、 上肢帯の連結：胸鎖関節、肩鎖関節、肩甲骨各部の連結
①	振り返り授業	※これまでの復習

7		前期中間試験
②	振り返り授業	前期中間試験の解説
8	第2章運動系 A骨格系 2骨格系各論 (パーフェクトP74~75)	上肢骨：上腕骨、肩関節 脊柱と胸郭：骨性胸郭（胸骨と肋骨）、骨盤
9	第2章運動系 A骨格系 2骨格系各論 (パーフェクトP74~75)	上肢骨：橈骨、尺骨、肘関節
10	第2章運動系 A骨格系 2骨格系各論 (パーフェクトP74~75)	上肢骨：手の骨（手根骨、中手骨・指骨） 手根の関節：橈骨手根関節、手根中央関節、手根間関節、豆状骨関節
11	第2章運動系 A骨格系 2骨格系各論 (パーフェクトP74~75)	手の関節：手根中手関節、中手間関節、中手指節関節、指節間関節
12	第2章運動系 A骨格系 2骨格系各論 (パーフェクトP74~75)	屈筋支帯と伸筋支帯、腱鞘と指背腱膜
13	第2章運動系 A骨格系 2骨格系各論 (パーフェクトP76~77)	下肢骨：大腿骨、下肢帯の連結（恥骨結合、仙腸関節）、 寛骨内部を結合する靭帯、大坐骨孔と小坐骨孔
14	第2章運動系 A骨格系 2骨格系各論 (パーフェクトP76~77)	下肢骨：膝関節（大腿脛骨関節、膝蓋大腿関節）、脛骨と腓骨の連結
③	振り返り授業 第2章運動系 A骨格系 2骨格系各論 (パーフェクトP76~77)	下肢骨：横足根関節、足根中足関節、中足間関節、中足趾節関節、趾節間関節
④	振り返り授業	※これまでの総復習
15		前期末試験
⑤	振り返り授業 第2章運動系 A骨格系 2骨格系各論 (パーフェクトP68~69)	頭蓋骨：顔面頭蓋と脳頭蓋、後頭骨、蝶形骨、側頭骨、頭頂骨、 前頭骨、篩骨、下鼻甲介、涙骨、鼻骨、鋤骨、 上顎骨、口蓋骨、頬骨、下顎骨

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	からだの仕組みⅡ
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	柔整科
4. 対象学年・対象学期	第1学年 1部A・1部B 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	山道 祥郎
7. 授業形式	重要事項を要約した図のプリントを配布する。 OneDriveに、要約と暗記シート対応の演習問題をアップする。 解剖学アトラス、人体模型と学習ソフト（ADAM）などを適宜活用する。
8. 授業の目標	人体の構造を、その機能・発生・適応を考えながら理解できる。 柔道整復師として生涯にわたり研究心を失わず、常に最良の医療をめざして 向上し続けるための素養を身につける。 国家試験に必要な知識を整理して記憶する術を養う。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	毎回、教科書と配布するレジュメを持参すること。無遅刻、無欠席は当然である。 授業中は居眠りや妄想にふけらず、集中して理解し記憶するように心がけること。 解剖学名などは、初めはなかなか覚えられなくても、アトラスや模型をよく観察し、 学名の由来に注意して繰り返し努力を重ねると、容易に記憶できるようになる。 新しい用語に喜びを見出し、忘れることを恐れずどんどん覚えよう。
11. 教科書	『人体解剖パーフェクト事典』 伊藤正裕・中村陽市監修 ナツメ社 『解剖学 改訂第2版』 岸清・石塚寛編 医歯薬出版
12. 副読本	『ネッター解剖学アトラス 原書第6版』 F.H.Netter著 相磯貞和訳 南江堂
13. 推薦参考図書	『解剖実習の手引き』 寺田春水・藤田恒夫著 南山堂 『PT・OT基礎から学ぶ解剖学ノート 第2版』 中島雅美編 医歯薬出版

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第1章人体解剖学概説 A解剖学の意義と分類 (パーフェクト P20～27、30～31)	人体解剖学とは、解剖学の歴史、解剖学の分類、解剖学用語、 方向と位置を示す用語、身体の基本面、運動面と運動軸
2	第1章人体解剖学概説 B細胞および組織 (パーフェクトP34～37)	細胞の大きさと形、人体の階層レベル、細胞の構成
3	第1章人体解剖学概説 B細胞および組織 (パーフェクトP38～41)	細胞周期と細胞分裂
4	第1章総論 (第1章人体解剖学概説) B細胞および組織 (パーフェクトP42～49)	上皮組織の特徴、上皮組織の機能による分類、上皮組織の形態による分類
5	第1章総論 (第1章人体解剖学概説) B細胞および組織 (パーフェクトP42～49)	内分泌腺と外分泌腺、外分泌腺の構造的分類、分泌物の放出機構
6	第1章人体解剖学概説 B細胞および組織 (パーフェクト P50～51、P66～67、 P142～143、P172～177)	支持組織の特徴、支持組織の役割、支持組織の分類、結合組織の繊維成分と基質 結合組織の細胞成分、腱の構造と構成成分、狭義の支持組織（軟骨組織・骨組織）、軟骨組織の 分類、骨組織の構造（からだの仕組みⅠで）

7	第1章人体解剖学概説 B細胞および組織 (パーフェクト P112～115)	液状組織（血液とリンパ）、血球の種類
8	第1章人体解剖学概説 B細胞および組織 (パーフェクトP82～89)	筋組織の種類、骨格筋の構造と機能、神経筋接合部
①	振り返り授業	※これまでの復習
9		前期中間試験
②	振り返り授業	※前期中間試験の解説
10	第1章人体解剖学概説 B細胞および組織 (パーフェクト P240～247)	神経組織、刺激反応系、神経系の区分、神経組織を構成する細胞
11	第1章人体解剖学概説 B細胞および組織 (パーフェクト P240～247)	神経細胞（ニューロン）とグリア細胞 シナプスの構造、ニューロンの分類、神経鞘と髄鞘、神経線維の分類
12	第1章人体解剖学概説 C発生 (パーフェクト P212～223)	生殖細胞、受精、着床、胎盤の形成、胚葉の形成
13	第1章人体解剖学概説 C発生 (パーフェクト P212～223)	各胚葉に由来するもの
14	第2章運動系 A骨格系 2骨格系各論 (パーフェクト P76～77)	下肢骨：下肢骨の構成、下肢帯（寛骨）、骨盤、股関節、膝蓋骨、脛骨、腓骨
③	振り返り授業	足根骨、中足骨、趾骨、距腿関節、距骨下関節
④	振り返り授業	※これまでの総復習
15		前期末試験
⑤	振り返り授業 第2章運動系 A骨格系 2骨格系各論 (パーフェクトP68～69)	頭蓋骨： 頭蓋の全景：頭蓋冠、内頭蓋底と外頭蓋底 眼窩、鼻腔、副鼻腔、翼口蓋窩、頭蓋泉門、顎関節

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	からだの働き I
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	柔整科1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	天貝 裕地
7. 授業形式	講義 PC・プロジェクター使用
8. 授業の目標	ねらい 生理学は正常な体の機能を理解するために欠かせない基礎的学問です。本科目は体を構成する様々な器官の働きを確実に理解することを目指します。 到達目標 専門基礎分野の『生理学』の学習に必要な基礎知識を習得する。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	授業予定範囲の教科書をよく読むこと。不明な点があればすぐに質問し、その場で理解するように努めること。復習を怠らないこと。
11. 教科書	『いちばんやさしい生理学』加藤尚志 他著 成美堂出版
12. 副読本	『生理学』改訂第4版 社団法人 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
13. 推薦参考図書	特になし

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	1 章 生理学とは	からだの働きを考える・からだを構成する器官・ホメオスタシス
2	1 2 章 細胞生理学	細胞の機能と構造 ・ 細胞膜の機能と構造
3	1 2 章 細胞生理学	細胞膜の輸送システム ・ 細胞分裂と細胞周期
4	8 章 脳・神経系	神経系の機能と分類 ・ ニューロンとシナプス ・ 興奮の伝導のしくみ
5	8 章 脳・神経系	中枢神経の構成 ・ 大脳のはたらき ・ 小脳と脳幹のはたらき ・ 脊髄の構造
6	8 章 脳・神経系	脳神経のはたらき ・ 脊髄神経のはたらき ・ 自律神経のはたらき
7	振り返り授業	※ 総復習
8		前期中間試験および解説
9	振り返り授業	前期中間試験の解説
10	7 章 筋・骨格系	筋肉の種類とはたらき ・ 筋肉の構造
11	7 章 筋・骨格系	筋肉が収縮するしくみ ・ 筋肉への情報伝達
12	7 章 筋・骨格系	骨のはたらきと形成 ・ 骨の構造 ・ 皮膚のはたらきと構造
13	1 1 章 感覚系	感覚のはたらきと種類 ・ 視覚のしくみ ・ 聴覚の仕組み
14	1 1 章 感覚系	平衡感覚のしくみ・嗅覚のしくみ・味覚のしくみ・痛覚・触覚などのしくみ
15	5 章 血液・造血系	血液のはたらきと成分 ・ 血液がつくられるしくみ
16	5 章 血液・造血系	赤血球のはたらき ・ 白血球のはたらき ・ 血小板のはたらき
17	振り返り授業	※ 総復習
18	振り返り授業	※ 総復習
19		前期末試験
20	振り返り授業	前期末試験の解説

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎柔整学Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院3年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	志田龍太
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	外傷の学習に臨むための基礎知識の確立
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	
11. 教科書	解剖学
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		オリエンテーション
2		解剖学用語
3		骨の基礎知識
4		関節の基礎知識
5		上肢の骨
6		〃
7	統合教育科目Ⅵ	※ 総復習
8		前期中間試験および解説
9	統合教育科目Ⅵ	前期中間試験の解説
10		〃
11		下肢の骨
12		〃
13		〃
14		上肢・下肢の関節
15		〃
16		上肢・下肢の計測
17	統合教育科目Ⅵ	※ 総復習
18	統合教育科目Ⅵ	※ 総復習
19		前期末試験
20	振り返り授業	前期末試験の解説

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎柔整学Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院9年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	白江 誠
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	講義を理解できるよう積極的に質問する
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	教科書をしっかり読む。遅刻・欠席をしない。私語、居眠り厳禁
11. 教科書	柔道整復学・理論編
12. 副読本	解剖学 全国柔道整復学校協会監修
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第2章 総論	授業の進め方等のオリエンテーション
2	第2章 総論	骨学
3	第2章 総論	骨学
4	第2章 総論	骨の性状における分類、骨損傷の程度による分類、骨折線の方法による分類
5	第2章 総論	骨折と創部との交通の有無による分類、骨折の数、外力の働いた部位による分類、外力の働き方による分類
6	第2章 総論	外力の働き方による分類、骨折の部位による分類
7	統合教育科目Ⅵ	※ 総復習
8		前期中間試験および解説
9	統合教育科目Ⅵ	前期中間試験の解説
10	第2章 総論	骨折の局所症状、骨折の固有症状
11	第2章 総論	骨折の全身症状、合併症（併発症）
12	第2章 総論	合併症（続発症）
13	第2章 総論	合併症（後遺症）
14	第2章 総論	小児骨折、高齢者の骨折
15	第2章 総論	骨折の癒合日数、骨折の治癒過程
16	第2章 総論	骨折の予後、骨折の治癒に影響を与える因子
17	統合教育科目Ⅵ	※ 総復習
18	統合教育科目Ⅵ	※ 総復習
19		前期末試験
20	振り返り授業	前期末試験の解説

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎柔整学Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院3年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	鈴木孝行
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	関節損傷総論の知識を習得する
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語、携帯電話の使用の禁止
11. 教科書	柔道整復学・理論編
12. 副読本	解剖学
13. 推薦参考図書	標準整形外科学

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	総論	関節の構造と機能
2	総論	関節損傷の概説
3	総論	関節損傷の分類
4	総論	関節構成組織損傷
5	総論	関節構成組織損傷
6	総論	脱臼
7	総論	脱臼
8	総論	筋損傷
9	統合教育科目Ⅵ	※ 総復習
10		前期中間試験および解説
11	統合教育科目Ⅵ	前期中間試験の解説
12	総論	筋損傷
13	総論	腱損傷
14	総論	腱損傷
15	総論	末梢神経損傷
16	総論	末梢神経損傷
17	振り返り授業	関節損傷時における診察カンファレンス
18	統合教育科目Ⅵ	※ 総復習
19		前期末試験
20	統合教育科目Ⅵ	前期末試験の解説

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎柔整学Ⅳ ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院・病院5年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	村上 直樹
7. 授業形式	講義形式 PC・プロジェクターを使用し重要事項を要約した資料の配布。
8. 授業の目標	柔道整復師業務を行う上で必要な診察法や治療法の知識の理解
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、携帯操作等厳禁 わからないことはその都度聞くこと
11. 教科書	柔道整復学・理論編
12. 副読本	標準整形外科学（医学書院）
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	柔道整復理論 P 8 6 ~	診察法および施術録（カルテ）の扱い方について
2	〃	〃
3	〃	〃
4	柔道整復理論 P 9 1 ~	骨折・脱臼の整復法および軟部組織損傷に対する初期処置
5	〃	〃
6	〃	〃
7	統合教育科目Ⅵ	※ 総復習
8		前期確認試験および解説
9	統合教育科目Ⅵ	前期中間試験の解説
10	柔道整復理論 P 9 6 ~	固定法について
11	〃	〃
12	柔道整復理論 P 1 0 6 ~	手技療法の概要と効果
13	柔道整復理論 P 1 0 9 ~	運動療法の概要・効果・禁忌について
14	〃	〃
15	柔道整復理論 P 1 1 3 ~	物理療法の概要・効果・禁忌について
16	〃	〃
17	統合教育科目Ⅵ	診察法、治療法の確認および実技
18	振り返り授業	※ 総復習
19		前期末試験
20	振り返り授業	前期末試験の解説

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	統合教育科目VI
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	白江誠、鈴木孝行、志田隆太、村上直樹
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	柔道整復理論の知識の向上を図る
9. 成績評価	出席日数、授業態度、本試験
10. 受講上の注意	私語、居眠り、携帯操作厳禁
11. 教科書	柔道整復学・理論編
12. 副読本	柔道整復学・実技編、標準整形外科学
13. 推薦参考図書	

14. 年間講義スケジュール

月	単 元	概 要
6月		各分野におけるまとめと復習 中間試験対策
8月		各分野におけるまとめと復習 期末試験対策
9月		各分野におけるまとめと復習 期末試験

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎実技 I ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院3年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	伊東 秀高
7. 授業形式	講義および実技
8. 授業の目標	人体解剖学の基礎を学び、テーピング固定の技術の修得
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	遅刻、欠席、忘れ物をしないようにする。
11. 教科書	基礎から学ぶ！スポーツテーピング（ベースボール・マガジン社）、プリント
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	身体の構造	骨・関節運動
2	テーピングの基礎知識	骨・関節運動
3	足関節テーピング	足関節テーピング固定①（概論）
4	足関節テーピング	足関節テーピング固定②（基本）
5	足関節テーピング	足関節テーピング固定③（基本）
6	足関節テーピング	足関節テーピング固定④（基本）
7		※ 総復習
8		前期中間試験および解説
9	足関節テーピング	足関節テーピング固定⑤（バスケットウィーブ）
10	足関節テーピング	足関節テーピング固定⑥（バスケットウィーブ）
11	足関節テーピング	足関節テーピング固定⑦（バスケットウィーブ）
12	膝関節テーピング	膝関節テーピング固定①（概論、十字靭帯損傷）
13	膝関節テーピング	膝関節テーピング固定②（十字靭帯損傷）
14	膝関節テーピング	膝関節テーピング固定③（側副靭帯損傷）
15	膝関節テーピング	膝関節テーピング固定④（側副靭帯損傷）
16	膝関節テーピング	膝関節テーピング固定⑤（半月板損傷）
17	膝関節テーピング	膝関節テーピング固定⑥（半月板損傷）
18		※ 総復習
19		前期末試験
20	応用テーピング	足関節・膝関節応用テーピング

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎実技Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院3年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	金子 和央
7. 授業形式	講義および実技
8. 授業の目標	柔道整復師が行う、アスレティックトレーナー業務を学ぶ
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、携帯電話等の電子機器の操作は厳禁、必ずKCを着用すること。
11. 教科書	なし
12. 副読本	なし
13. 推薦参考図書	医歯薬出版 競技者と外傷予防 アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第5巻 検査・測定と評価

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	自己紹介、AT総論①	アスレティックトレーナーの仕事とその役割
2	AT総論②	アスレティックトレーナーの仕事とその役割、検査機器の説明
3	怪我の予防 ①	身体評価、タイトネス評価
4	怪我の予防 ②	MMT（徒手筋力テスト）
5	怪我の予防 ③	アライメントの評価
6	怪我の予防 ④	触診法、圧痛テスト
7	ストレッチ総論	ストレッチの種類と方法、下肢のパートナーストレッチ
8	ストレッチ実技	下肢のパートナーストレッチ
9	ストレッチ実技	※ 総復習
10		前期中間試験および解説
11		前期中間試験の解説
12	トレーニング総論	トレーニングの原理・原則
13	トレーニング実技	基本姿勢とフリーハンドトレーニング（体幹編）
14	救急処置 ①	総論、PRICE処置
15	救急処置 ②	軟部組織損傷の応急処置 ①
16	救急処置 ③	軟部組織損傷の応急処置 ②
17	救急処置 ④	創傷の応急処置、止血法、その他の処置
18		※ 総復習
19		前期末試験
20		前期末試験の解説

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎柔整実技Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院13年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科
4. 対象学年・対象学期	第1学年1部・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	芦名 潤一
7. 授業形式	講義および実技
8. 授業の目標	基本包帯法 包帯固定の修得
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語厳禁
11. 教科書	包帯固定学
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		包帯および軟性材料の説明
2		巻軸包帯の説明 巻き方、巻き戻し方の基本
3		基本包帯法 環行帯 蛇行帯 螺旋帯の練習
4		折転帯の練習
5		折転帯の練習 小テスト
6		亀甲帯の練習
7		亀甲帯の練習 小テスト
8		肩 上行麦穂帯の練習
9		肩 上行麦穂帯の練習
10		前期中間試験および解説
11		肩 上行麦穂帯の練習 小テスト
12		肩 下行麦穂帯の練習
13		肩 下行麦穂帯の練習 小テスト
14		足関節の包帯固定の練習
15		足関節の包帯固定の練習
16		デゾー包帯の練習
17		デゾー包帯の練習
18		ヴェルポー、デゾー包帯、ジュール包帯の練習
19		前期末試験
20		ヴェルポー、デゾー包帯、ジュール包帯の練習

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	応用実技 I ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院13年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科
4. 対象学年・対象学期	第1学年1部・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	芦名 潤一
7. 授業形式	講義および実技
8. 授業の目標	柔道整復臨床実習に対する診察から後療までの基礎知識及び応用実技の修得
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	遅刻、欠席、私語、居眠り、携帯電話操作厳禁。
11. 教科書	柔道整復学・実技編（南江堂）
12. 副読本	柔道整復学・理論編（南江堂）
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	オリエンテーション	オリエンテーションおよび授業概要説明
2	1. 柔道整復施術	A. 柔道整復業務 B. 骨折の施術 C. 脱臼の施術 D. 軟部組織損傷の施術
3	2. 運動器系の施術	損傷の診察（観察および問診）①
4		損傷の診察（観察および問診）②
5		ROM、MMTの計測、評価 ①
6		ROM、MMTの計測、評価 ②
7		腱反射の種類、評価 ①
8		前期中間試験および解説
9		腱反射の種類、評価 ②
10		外傷における処置（三角巾と包帯の使用法）
11		外傷における処置（冠名包帯法：デゾー包帯法）①
12		外傷における処置（冠名包帯法：デゾー包帯法）②
13		外傷における処置（冠名包帯法：ヴェルポー包帯法）
14		外傷における処置（冠名包帯法：ジュール包帯法）
15		副子を使用した処置（厚紙副子）①
16		副子を使用した処置（厚紙副子）②
17		前期末試験対策（まとめ復習）
18		臨床実習に向けて接骨院の流れ（診察～後療法）①
19		前期末試験
20		臨床実習に向けて接骨院の流れ（診察～後療法）②

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	画像評価実技 I ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院3年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	鈴木孝行
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	超音波画像の基礎を習得する
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語、携帯電話使用の禁止
11. 教科書	運動器の超音波
12. 副読本	解剖学
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	超音波画像観察装置の基礎	エコーの仕組み
2	超音波画像観察装置の基礎	エコーの仕組み
3	超音波画像観察装置の基礎	画像の描写
4	超音波画像観察装置の基礎	画像の描写
5	超音波画像観察装置の基礎	各部位の観察
6	超音波画像観察装置の基礎	各部位の観察
7		※ 総復習
8		前期中間試験および解説
9		前期中間試験の解説
10	超音波画像観察装置の応用	上肢の観察
11	超音波画像観察装置の応用	上肢の観察
12	超音波画像観察装置の応用	上肢の観察
13	超音波画像観察装置の応用	下肢の観察
14	超音波画像観察装置の応用	下肢の観察
15	超音波画像観察装置の応用	下肢の観察
16	超音波画像観察装置の応用	体幹の観察
17	症例画像考察・カンファレンス	症例画像考察・カンファレンス
18		※ 総復習
19		前期末試験
20		前期末試験の解説

令和2年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	職業教育 I
2. 科目分類	応用分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 通年
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	志田 龍太 他
7. 授業形式	座学および各種活動
8. 授業の目標	団体行動において規則や時間を順守することの大切さを知る。 地域との関わり合いを通して奉仕の心を育む。また。活動の中で学生間および学生と教職員のコミュニケーション作りを図る。
9. 成績評価	出席状況、受講態度、履修状況、試験成績などを考慮し評価する。
10. 受講上の注意	積極的に活動に参加し、関係性の構築を図る。
11. 教科書	柔整学理論編、解剖学、生理学
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		オリエンテーション(2コマ分)
2		地域清掃活動(2コマ分)
3		前期末模擬試験および解説の作成(2コマ分)
4		後期末模擬試験および解説の作成(2コマ分)

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	解剖学Ⅱ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科
4. 対象学年・対象学期	第2学年1・2部・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	松野 健次郎
7. 授業形式	予め書き込み式資料を配布し、簡単な予習課題を与える。書画カメラとタブレットPCを接続した液晶プロジェクターを使用し、供覧・解説しながら教科書や配付資料の重要事項・模式図を色鉛筆で色分けさせ、重要語句を書き込ませる。これらにより理解しやすく覚えやすいマイ教科書とマイノートを作成させ、自主学習を促進する。
8. 授業の目標	各臓器の簡単な模式図と説明を書く事ができるようになり、人体の構造をその機能・発生・適応を考えながら説明できる。国家試験の当該科目に必要な知識を記憶し、問題の考察・推測力をつけ、75%以上得点できるようになる。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	解剖学は、身体全体の全体像と生命活動の不思議さを知る面白い科目である。興味や問題意識を持って受講すること。1週間前に配付資料と簡単な予習課題を与えるので、毎回必ず予習し、当日は予習済資料・教科書と色鉛筆を持参すること。予習無しは減点する。不真面目な態度や居眠りをしないよう注意すること。
11. 教科書	「解剖学 改訂第2版」岸清・石塚宏編 医歯薬出版
12. 副読本	「ネッター解剖学アトラス 第5版」F. H. Netter著 相磯貞和訳 南江堂
13. 推薦参考図書	「からだの構造と機能」シェフラー・シュミット著 西村書店 ￥4,800

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	イントロ	内臓系と内分泌系の概要、消化器総論
2	消化器系(1)	口腔・唾液腺・舌(味覚)
3	消化器系(2)	咽頭・食道・胃
4	消化器系(3)	小腸・大腸・肛門
5	消化器系(4)	肝臓・胆管・膵臓
6	消化器系(5)呼吸器系(1)	腹腔・胸腔
7	呼吸器(2)	鼻・咽頭・喉頭・声帯・気管
8	呼吸器(3)	気管支・肺と呼吸器系のとまとめ
9	統合教育科目Ⅰ①	※総復習：国試過去問（消化器系・呼吸器系）の問題集に解説を書き込む
10		前期中間試験および解説
11	統合教育科目Ⅰ②	前期中間試験の解説
12	泌尿器(1)	腎臓
13	泌尿器(2)・生殖器(1)	尿路、[尿管蠕動 movie]、男女差
14	生殖器(2)	男性生殖器
15	生殖器(3)	女性生殖器、排卵と月経
16	生殖器(4)内分泌系(1)	妊娠と胎盤、内分泌系総論
17	統合教育科目Ⅰ③	下垂体、松果体、甲状腺、膵ランゲルハンス島、副腎
18	統合教育科目Ⅰ④	※総復習：国試過去問（肝胆膵、呼吸器系～内分泌系）の問題集に解説を書き込む
19		前期末試験
20	振り返り授業	※試験講評～解説、まとめ

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	生理学 I
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	濱津慶子
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	国家試験に合格できるだけの実力を身につける。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	教科書を忘れずに持参すること。
11. 教科書	生理学 改訂第3版 南江堂
12. 副読本	いちばんやさしい生理学 成美堂出版社
13. 推薦参考図書	人体の正常構造と機能 日本医事新報社

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	循環の生理学	心臓の構造と機能 心臓のポンプ機能
2		心筋の性質 心電図 不整脈
3		血管系とリンパ管系 循環の調節（自律神経系について）
4		局所循環
5	血液の生理学	血液の役割・組成 免疫機能
6		血液型 血液の凝固
7	統合教育科目 I	総復習
8		前期中間試験および解説
9	統合教育科目 I	前期中間試験の解説
10	呼吸の生理学	呼吸器の機能的構造 換気
11		ガス交換 血液中の酸素運搬
12		血液中の二酸化炭素運搬 呼吸を調整するしくみ（自律神経系について）
13		呼吸の異常 特殊環境下の呼吸 人工呼吸
14	消化と吸収	消化器の基本構造 消化管の運動と調節 消化液の分泌機序（神経・ホルモン）
15		三大栄養素の消化
16		三大栄養素の吸収
17	統合教育科目 I	肝臓と胆道系
18		前期末試験
19	統合教育科目 I	前期末試験の復習

令和2年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	統合教育科目 I
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科
4. 対象学年・対象学期	第2学年・通年
5. 単位数	3単位
6. 担当講師	松野健二郎、濱津慶子、山道祥郎、天貝裕地
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	各科目のまとめとして包括的に学習し更なる知識の向上を図る
9. 成績評価	出席日数、授業態度、小テスト、本試験
10. 受講上の注意	私語、居眠り、携帯操作厳禁
11. 教科書	解剖学、生理学、運動学
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 年間講義スケジュール

月	単 元	概 要
6月		各分野におけるまとめと復習 試験対策
8月		各分野におけるまとめと復習 試験対策
9月		各分野におけるまとめと復習 期末試験
11月		各分野におけるまとめと復習 試験対策
12月 1月		各分野におけるまとめと復習 試験対策
2月		各分野におけるまとめと復習 試験対策
3月		各分野におけるまとめと復習 期末試験

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	病理学概論
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1・2部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	飯島直子
7. 授業形式	作製したプリントと教科書を中心に進める。黒板も活用し、図や矢印を多用して教える。
8. 授業の目標	次年度の国試に全員合格できるような授業を目指す。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語や居眠りは厳禁。丸暗記でなく仕組みを理解するように心がける。
11. 教科書	『病理学概論』 社団法人 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版
12. 副読本	なし
13. 推薦参考図書	『病理学』 堤寛著 医学芸術社

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第5章	進行性病変（病的増殖）と細胞・組織の適応
2	第5章	進行性病変（病的増殖）と細胞・組織の適応
3	第5章	進行性病変（病的増殖）と細胞・組織の適応
4	第5章	進行性病変（病的増殖）と細胞・組織の適応
5	第5章	進行性病変（病的増殖）と細胞・組織の適応
6	第4章	循環障害
7	統合教育科目Ⅲ	総復習
8		前期中間試験および解説
9	統合教育科目Ⅲ	前期中間試験の解説
10	第4章	循環障害
11	第4章	循環障害
12	第4章	循環障害
13	第4章	循環障害
14	第4章	循環障害
15	第3章	細胞傷害（退行性病変，代謝障害）
16	第3章	細胞傷害（退行性病変，代謝障害）
17	統合教育科目Ⅲ	総復習
18	統合教育科目Ⅲ	総復習
19		前期末試験
20	統合教育科目Ⅲ	前期末試験の復習

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	一般臨床医学
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1・2部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	関根 英治 永福 智志 和栗 聡
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	内科疾患の病態生理の理解と国試対策
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	積極的に質問して理解することにより、わからないままにしない。
11. 教科書	医歯薬出版株式会社 一般臨床医学
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		オリエンテーション
2		内科診断学①
3		内科診断学②心肺所見
4		内科診断学③神経学的所見
5		循環器①
6		循環器②
7		呼吸器①
8		呼吸器②
9	統合教育科目Ⅲ	総復習
10		前期中間試験および解説
11	統合教育科目Ⅲ	前期中間試験の解説
12		消化器② 消化管疾患①
13		膠原病 慢性関節リウマチ SLE ページェット
14		内分泌① 下垂体機能障害 甲状腺機能亢進症 橋本病
15		血液疾患
16		神経疾患①
17	統合教育科目Ⅲ	総復習
18	統合教育科目Ⅲ	総復習
19		前期末試験
20	統合教育科目Ⅲ	前期末試験の復習

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	外科学概論
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1・2部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	大和 宣介
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	外科学を理解する。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	教科書、ノートを復習する。
11. 教科書	外科学概論、改訂第4版（南江堂）
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第1章	損傷、創傷、熱傷
2	第2章	炎症と外科感染症
3	第3章	腫瘍
4	第4章	ショック
5	第5章	輸血輸液
6	第6章、第7章	消毒滅菌と手術
7	統合教育科目Ⅲ	総復習
8		前期中間試験および解説
9	統合教育科目Ⅲ	前期中間試験の解説
10	第8章、第9章	麻酔と移植免疫
11	第10章	出血止血
12	第11章	心肺蘇生法
13	第12章	脳・神経疾患の主要徴候
14	第13章、第14章	甲状腺頸部疾患と胸壁呼吸器疾患
15	第15章	心臓・脈管疾患
16	第16章、第17章	乳腺疾患と腹部外科疾患の症状
17	統合教育科目Ⅲ	総復習
18		前期末試験
19	統合教育科目Ⅲ	前期末試験
20	統合教育科目Ⅲ	前期末試験の復習

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	リハビリテーション医学
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科
4. 対象学年・対象学期	第2学年1・2部・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	松野 健二郎
7. 授業形式	予め書き込み式資料を配布し、簡単な予習課題を与える。書画カメラとタブレットPCを接続した液晶プロジェクターを使用し、供覧・解説しながら教科書や配付資料の重要事項・模式図を色鉛筆で色分けさせ、重要語句を書き込ませる。これらにより理解しやすく覚えやすいマイ教科書とマイノートを作成させ、自主学習を促進する。
8. 授業の目標	臨床でも関わることが多いリハビリテーション医学は重要な必須科目である。国家試験受験に必要な知識を理解・記憶し、問題の考察・推測力をつけ、70%以上得点できるようになることを目標とする。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	毎回必ず教科書と色鉛筆を持参すること。不真面目な態度や居眠りをしないよう注意すること。
11. 教科書	社団法人 全国柔道整復学校協会監修 リハビリテーション医学
12. 副読本	「ネッター解剖学アトラス 第5版」F.H.Netter著 相磯貞和訳 南江堂
13. 推薦参考図書	「リハビリテーション ビジュアルブック第2版」落合慈之監修 学研メディカル 3672円

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	総論	イントロ、概念・歴史・評価学
2	上肢（1）	肘関節と手関節
3	上肢（2）	手・指
4	上肢（3）	上肢の神経マヒとリハビリテーション医学
5	上肢（4）	肩関節、rotator cuff
6	上肢（5）	上肢帯、肩の病態とリハビリテーション医学
7	下肢（1）	股関節・骨盤
8	下肢（2）	膝関節
9	統合教育科目Ⅲ①	※ 総復習（プリント学習）：国試過去問（前半）の問題集に解説を書き込む
10		前期中間試験および解説
11	統合教育科目Ⅲ②(第5章 B, C)	上肢の病態とリハビリテーション医学
12	下肢（3）	足関節
13	下肢（4）	足・指の病態とリハビリテーション医学
14	体幹（1）	頸椎・顎関節
15	体幹（2）	胸腰椎
16	体幹（3）	体幹の病態とリハビリテーション医学
17	統合教育科目Ⅲ③	※ 総復習（プリント学習）：国試過去問（後半）の問題集に解説を書き込む
18	統合教育科目Ⅲ④	※ まとめ
19		前期末試験
20	振り返り授業	※ まとめ

令和2年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	統合教育科目Ⅲ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科
4. 対象学年・対象学期	第2学年・通年
5. 単位数	3単位
6. 担当講師	飯島直子、大和宣介、福嶋稔、松野健二郎、関根英治、和栗聡、永福智志
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	各科目のまとめとして包括的に学習し更なる知識の向上を図る
9. 成績評価	出席日数、授業態度、小テスト、本試験
10. 受講上の注意	私語、居眠り、携帯操作厳禁
11. 教科書	病理学概論、一般臨床医学、外科学概論、リハビリテーション医学、整形外科学
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 年間講義スケジュール

月	単 元	概 要
6月		各分野におけるまとめと復習 試験対策
8月		各分野におけるまとめと復習 試験対策
9月		各分野におけるまとめと復習 期末試験
11月		各分野におけるまとめと復習 試験対策
12月 1月		各分野におけるまとめと復習 試験対策
2月		各分野におけるまとめと復習 定期試験対策
3月		各分野におけるまとめと復習 期末試験

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	柔道Ⅱ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1・2部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	鈴木孝行
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	講道館柔道における『立技』『寝技』の習得、投の形の理解
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語、集団行動を乱すことを禁じる。
11. 教科書	授業内で配布する資料
12. 副読本	柔道Ⅰ
13. 推薦参考図書	講道館『投の形』のDVD

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	立技	大外刈り、乱取り
2	立技	大外刈り、乱取り
3	立技・寝技	足払い、乱取り・固め技
4	寝技	固め技・極め技
5	寝技	寝技の返し方
6	寝技	寝技の乱取り
7	振り返り授業	総復習
8		前期中間試験および解説
9	振り返り授業	前期中間試験の解説
10	応用	立技・寝技の乱取り
11	応用	立技・寝技の乱取り
12	応用	立技・寝技の乱取り
13	形	手技・腰技
14	形	手技・腰技・足技
15	形	足技・手技・腰技
16	総まとめ	認定実技審査に準じる内容
17	振り返り授業	投の形演舞
18	振り返り授業	総復習
19		前期末試験
20	振り返り授業	前期末試験の復習

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎柔整学V ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院15年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1・2部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	竹沢 潤
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	後療法（物理療法）を理解し実践出来るようにする。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語、携帯電話、スマートフォン使用、居眠り
11. 教科書	柔道整復学・理論編
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	後療法の目的	後療法の目的を理解する。自己紹介、オリエンテーション
2	後療法の用量・準備	注意事項や患者の準備などを理解する。実技
3	手技療法	手技療法の種類、適応、禁忌などを理解、習得する。
4	課題プリント	単元1～3の復習
5	手技療法	手技療法の種類、適応、禁忌などを理解、習得する。
6	手技療法	実技、練習
7	振り返り授業	総復習
8		前期中間試験および解説
9	振り返り授業	前期中間試験の解説
10	手技療法	実技、練習
11	運動療法	運動療法の目的、方法を理解、習得する。
12	運動療法	前回の復習
13	物理療法	物理療法の定義、目的などを理解する。
14	物理療法	分類、安全対策の理解、習得
15	物理療法	電気療法について理解、習得
16	物理療法	単元13～15の復習
17	振り返り授業	総復習
18		前期末試験
19	振り返り授業	前期末試験の復習

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床柔整学Ⅳ ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院3年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	伊東 秀高
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	上肢の軟部組織損傷を理解する。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、指示以外のスマートフォン・ipad操作厳禁（周囲に迷惑をかける事）
11. 教科書	柔道整復学・理論編
12. 副読本	柔道整復学・実技編、標準整形外科学
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	肩関節部の軟部組織損傷	肩関節部の解剖と機能、筋・腱の損傷
2	肩関節部の軟部組織損傷	肩関節部の解剖と機能、筋・腱の損傷
3	肩関節部の軟部組織損傷	スポーツ損傷
4	肩関節部の軟部組織損傷	スポーツ損傷
5	肩関節部の軟部組織損傷	不安定症、末梢神経障害
6	肩関節部の軟部組織損傷	その他の疾患
7	統合教育科目Ⅷ	総復習
8		前期中間試験および解説
9	統合教育科目Ⅷ	前期中間試験の解説、上腕部の解剖と機能
10	上腕部の軟部組織損傷	橈骨神経損傷、尺骨神経損傷
11	肘関節部の軟部組織損傷	肘関節部の解剖と機能、靭帯の損傷、野球肘
12	肘関節部の軟部組織損傷	野球肘、テニス肘、その他の疾患
13	前腕部の軟部組織損傷	前腕部の解剖と機能、前腕コンパートメント症候群
14	前腕部の軟部組織損傷	腱交叉症候群、末梢神経損傷
15	手関節部の軟部組織損傷	手関節部の解剖と機能、三角線維軟骨複合体損傷、ド・ケルバン病
16	手関節部の軟部組織損傷	末梢神経障害、キーンベック病、マーデルング変形
17	統合教育科目Ⅷ	手指部の解剖と機能、軟部組織損傷
18	統合教育科目Ⅷ	総復習
19		前期末試験
20	統合教育科目Ⅷ	前期末試験の復習

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床柔整学V ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院8年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1・2部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	齊藤 慎吾
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	筋の起始、停止を図で覚え、筋の作用による骨片転位を理解させる。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	わからないことは、その時、その場で聞くように。
11. 教科書	柔道整復学・理論編 社団法人柔道整復学校協会・教科書委員会編集（南江堂）
12. 副読本	柔道整復学・実技編（南江堂） ・ 標準整形外科学（医学書院）
13. 推薦参考図書	分冊解剖学アトラス（東京分光堂本郷）・身体運動の機能解剖学（医道の日本社）

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	骨盤骨骨折	分類・発生機序・症状・合併症について
2	骨盤骨骨折	〃
3	大腿骨近位端部骨折	〃
4	大腿骨近位端部骨折	〃
5	大腿骨骨幹部骨折	〃
6	大腿骨骨幹部骨折	〃
7	統合教育科目Ⅷ	総復習
8		前期中間試験および解説
9	統合教育科目Ⅷ	前期中間試験の解説
10	大腿骨遠位端部骨折	分類・発生機序・症状・合併症について
11	下腿骨近位端部骨折	〃
12	膝蓋骨骨折	〃
13	下腿骨骨幹部骨折	〃
14	下腿骨遠位端部骨折	〃
15	足根骨骨折	〃
16	足根骨骨折・趾骨骨折	〃
17	統合教育科目Ⅷ	総復習
18	統合教育科目Ⅷ	総復習
19		前期末試験
20	統合教育科目Ⅷ	前期末試験の復習

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床柔整学VI ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院・病院5年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1・2部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	村上 直樹
7. 授業形式	講義形式 PC・プロジェクターを使用し重要事項を要約した資料の配布。
8. 授業の目標	柔道整復学における下肢の脱臼と軟部組織損傷の知識の習得と理解
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、携帯操作等厳禁 わからないことはその都度聞くこと
11. 教科書	柔道整復学・理論編
12. 副読本	解剖学（南江堂） 標準整形外科学（医学書院）
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	柔道整復理論 P 3 6 6	股関節脱臼
2	柔道整復理論 P 3 9 7	膝関節脱臼 膝蓋骨脱臼
3	柔道整復理論 P 4 3 6	足関節脱臼 足部の脱臼
4	柔道整復理論 P 4 4 9	中足足趾関節脱臼 趾節間関節脱臼
5	柔道整復理論 P 3 7 0	股関節 軟部組織損傷と注意すべき疾患
6	柔道整復理論 P 3 8 0	大腿部 軟部組織損傷と注意すべき疾患
7	統合教育科目Ⅷ	総復習
8		前期中間試験および解説
9	統合教育科目Ⅷ	前期中間試験の解説
10	柔道整復理論 P 4 0 1	膝関節 軟部組織損傷と注意すべき疾患
11	柔道整復理論 P 4 0 1	〃
12	柔道整復理論 P 4 2 1	下腿部 軟部組織損傷と注意すべき疾患
13	柔道整復理論 P 4 3 6	足関節 軟部組織損傷と注意すべき疾患
14	柔道整復理論 P 4 3 6	〃
15	柔道整復理論 P 4 3 6	足根部 軟部組織損傷と注意疾患
16	柔道整復理論 P 4 5 3	足部・足趾部 軟部組織損傷と注意疾患
17	統合教育科目Ⅷ	総復習
18	統合教育科目Ⅷ	総復習
19		前期末試験
20	統合教育科目Ⅷ	前期末試験の復習

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎柔整実技Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院28年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1・2部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	刈屋太郎
7. 授業形式	実技および講義
8. 授業の目標	临床上重要な上肢骨折、脱臼、軟損の診察・整復法・固定法などを学ぶ。
9. 成績評価	中間試験と期末試験の結果に平常点（小テストや出席、授業態度等）を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	実技における心構え、服装、身だしなみ、確認・定期試験成績、受講中の態度
11. 教科書	私語は厳禁、手や爪の手入れ、髪の毛、無精髭などの身だしなみ
12. 副読本	「柔道整復理論（理論編）」 「柔道整復理論（実技編）」
13. 推薦参考図書	「標準整形外科学」

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	上肢骨折	鎖骨骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて①
2		鎖骨骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて②
3		上腕骨外科頸骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて①
4		上腕骨外科頸骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて②
5		上腕骨顆上骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて①
6		上腕骨顆上骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて②
7		コーレス骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて①
8		コーレス骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて②
9		総復習
10		前期中間試験および解説
11		前期中間試験の解説
12		手指部の骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて①
13		手指部の骨折の診察法、整復法、固定法、後療法などについて②
14	上肢脱臼	肩関節脱臼の診察法、整復法、固定法、後療法などについて①
15		肩関節脱臼の診察法、整復法、固定法、後療法などについて②
16		肘関節脱臼の診察法、整復法、固定法、後療法などについて①
17		肘関節脱臼の診察法、整復法、固定法、後療法などについて②
18		総復習
19		前期末試験
20		前期末試験の復習

令和2年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	統合教育科目Ⅷ
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科
4. 対象学年・対象学期	第2学年・通年
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	白江誠、齊藤慎吾、竹沢潤、伊東秀高、志田龍太、村上直樹
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	柔道整復理論の知識の向上を図る
9. 成績評価	出席日数、授業態度、小テスト、本試験
10. 受講上の注意	私語、居眠り、携帯操作厳禁
11. 教科書	柔道整復学・理論編
12. 副読本	柔道整復学・実技編、標準整形外科学
13. 推薦参考図書	

14. 年間講義スケジュール

月	単 元	概 要
6月		各分野におけるまとめと復習 試験対策
8月		各分野におけるまとめと復習 試験対策
9月		各分野におけるまとめと復習 期末試験
11月		各分野におけるまとめと復習 試験対策
12月 1月		各分野におけるまとめと復習 試験対策
2月		各分野におけるまとめと復習 試験対策
3月		各分野におけるまとめと復習 期末試験

令和2年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	臨床実習Ⅱ	
2. 科目分類	専門分野	
3. 対象学科	柔整科	
4. 対象学年・対象学期	第2学年 1部・通年	
5. 単位数	1単位	
6. 担当講師	佐藤 詩栞	
7. 授業形式	講義および実技	
8. 授業の目標	接骨院実習を通じ、業務内容を理解する。 医療人としての自覚を育て、自ら考え行動できる人材を育てる。	
9. 成績評価	毎回の評価シートをもとに評価する。	
10. 受講上の注意	ケーシー着用、スマートフォン等の電子機器操作厳禁、私語厳禁、準備物は事前確認	
11. 教科書	必要に応じて持参	
12. 副読本		
13. 推薦参考図書		
14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	オリエンテーション	実習の意義、注意事項確認、一連の流れ/実習及び見学
2	第2接骨院実習	物療機の取り扱い、体験/実習及び見学
3	第2接骨院実習	物療機の取り扱い、体験/実習および見学
4	第2接骨院実習	テーピング、ストレッチ/実習及び見学
5	第2接骨院実習	テーピング、ストレッチ/実習及び見学
6	第2接骨院実習	手技療法/実習及び見学
7	第2接骨院実習	手技療法/実習及び見学
8	第2接骨院実習	包帯固定法/実習及び見学
9	第2接骨院実習	包帯固定法/実習及び見学
10	第2接骨院実習	総復習

令和2年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	臨床実習Ⅲ	
2. 科目分類	専門科目	
3. 対象学科	柔整科	
4. 対象学年・対象学期	第2学年 1部・通年	
5. 単位数	1単位	
6. 担当講師	齊藤慎吾、鈴木英明、後藤陽正、鈴木孝行、伊東秀高、金子和央、志田龍太	
7. 授業形式	講義および実技	
8. 授業の目標	介護実習を通じ、業務内容を理解する。 医療人としての自覚を育て、自ら考え行動できる人材を育てる。	
9. 成績評価	毎回の評価シートをもとに評価する。	
10. 受講上の注意	ケーシー着用、スマートフォン等の電子機器操作厳禁、私語厳禁、準備物は事前確認	
11. 教科書	必要に応じて持参	
12. 副読本		
13. 推薦参考図書		
14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	オリエンテーション	別紙資料にて実施。第2接骨院実習場所確認・介護実習概要説明。
2	介護施設実習	デイサービスでの実習（介護保険制度について）
3	介護施設実習	デイサービスでの実習（介護保険制度について）
4	介護施設実習	デイサービスでの実習（柔道整復師と機能訓練指導）
5	介護施設実習	デイサービスでの実習（柔道整復師と機能訓練指導）
6	介護施設実習	デイサービスでの実習（柔道整復師と機能訓練指導）
7	介護施設実習	デイサービスでの実習（柔道整復師と機能訓練指導）
8	スキー場救護実習	各班1回ずつ参加。（2回分）
9		
10	逆走マラソン救護実習	各班1回ずつ参加。（2回分）
11		
12	柔道大会救護実習	各班2回ずつ参加。（4回分）
13		
14		
15		

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	解剖学IV
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科
4. 対象学年・対象学期	第3学年 1部A・B 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	山道 祥郎
7. 授業形式	重要事項を要約した図のプリントを配布する。 OneDriveに、要約と暗記シート対応の演習問題をアップする。 解剖学アトラス、人体模型と学習ソフト（ADAM）などを適宜活用する。
8. 授業の目標	人体の構造を、その機能・発生・適応を考えながら理解できる。 柔道整復師として生涯にわたり研究心を失わず、常に最良の医療をめざして 向上し続けるための素養を身につける。 最終学年のため、解剖学および運動学のポイント学習と問題演習を行う。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	毎回、教科書と配布するプリントを持参すること。無遅刻、無欠席は当然である。 授業中は居眠りや妄想をしないこと。後でまとめて覚えようとは思わず、 授業時間内に理解し記憶するように心がけること。
11. 教科書	『解剖学 改訂第2版』 岸清・石塚寛編 医歯薬出版 『運動学 改訂第3版』 齋藤宏・鴨下博著 医歯薬出版
12. 副読本	『ネッター解剖学アトラス 原書第5版』 F.H.Netter著 相磯貞和訳 南江堂 『PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート』 中島雅美・中島喜代彦編 医歯薬出版
13. 推薦参考図書	『解剖実習の手引き』 寺田春水・藤田恒夫著 南山堂

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		第28回柔道整復師国家試験問題の演習と解説
2		体表解剖学 運動学：問題演習（ホームワーク）と解説
3		人体解剖学基礎・脈管系総論・心臓 運動学：問題演習（ホームワーク）と解説
4		動脈・静脈・胎児循環・リンパ系 運動学：問題演習（ホームワーク）と解説
5		消化器系 運動学：問題演習（ホームワーク）と解説
6		呼吸器系 運動学：問題演習（ホームワーク）と解説
7		泌尿生殖器系 運動学：問題演習（ホームワーク）と解説
8		内分泌系 運動学：問題演習（ホームワーク）と解説
9		神経系基礎 運動学：問題演習（ホームワーク）と解説
10		大脳半球 運動学：問題演習（ホームワーク）と解説
11		間脳と脳幹 運動学：問題演習（ホームワーク）と解説
12		脊髄 運動学：問題演習（ホームワーク）と解説
13		伝導路 運動学：問題演習（ホームワーク）と解説
14		脳神経 運動学：問題演習（ホームワーク）と解説
①	統合教育科目Ⅱ	脊髄神経 運動学：問題演習（ホームワーク）と解説
②	統合教育科目Ⅱ	自律神経系 運動学：問題演習（ホームワーク）と解説
15		前期定期試験
③	統合教育科目Ⅱ	感覚器系 運動学：問題演習（ホームワーク）と解説
④	統合教育科目Ⅱ	まとめ
⑤	統合教育科目Ⅱ	定期試験の解説

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	生理学Ⅲ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	天貝 裕地
7. 授業形式	講義 PC・プロジェクター使用
8. 授業の目標	ねらい 第1・2学年で学んだ生理学を総復習し、知識を確実なものにする。 到達目標 各単元を横断的に理解し、あらゆる課題に対応できる応用力を培う。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	授業予定範囲の予習・授業内容の復習
11. 教科書	『生理学』改訂第3版 社団法人 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
12. 副読本	特になし
13. 推薦参考図書	特になし

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	1. 生理学の基礎	ホメオスタシス・体の組成・細胞の構造・受動輸送/能動輸送・食作用/飲作用/開口分泌
2	2. 血液の生理学	血液の役割・血液の組成・免疫機能・血液型・血液の凝固
3	3. 循環の生理学	心臓の機能・血管系・リンパ管系・循環の調節・局所循環・脳脊髄液循環
4	4. 呼吸の生理学	呼吸器・換気・ガス交換/運搬・呼吸の調節・呼吸の異常・特殊環境・人工呼吸
5	5. 消化と吸収	消化器系・消化管運動・消化液の分泌・消化・吸収・消化管ホルモン・肝臓/胆道系
6	6. 栄養と代謝	代謝・中間代謝・エネルギー代謝
7	7. 体温とその調節	体温の生理的変動・熱の産生・熱放散・体温の調節・うつ熱と発熱・気候馴化
8	8. 尿の生成と排泄	腎の構造と機能・糸球体ろ過・尿細管における再吸収/分泌・尿の成分・排尿
9	9. 内分泌系の機能	内分泌腺・ホルモンの一般的性質・各内分泌腺のホルモンの作用
10	10. 生殖 11. 骨の生理学	性染色体とその異常・性分化・男性生殖器系の構成・精子形成・勃起と射精・女性生殖器の構成・卵巣周期・月経周期・妊娠と分娩・乳汁分泌 骨の構造・骨の形成/成長・骨吸収/骨形成・カルシウム調節ホルモン・骨の病気
11	12. 体液の生理学 13. 神経の基本的機能	体液の区分と水バランス・体液のイオン組成・体液恒常性の維持・酸塩基平衡 神経細胞の形態・静止膜電位・活動電位・閾刺激・全か無かの法則・不応期・イオンチャンネル・興奮の伝導・複合活動電位・興奮の伝達
12	14. 神経系の機能	神経系の成り立ち・内臓機能の調節・姿勢と運動の調節・高次機能
13	15. 筋肉の機能	筋の種類/特徴・骨格筋の構造・筋収縮のしくみ・筋細胞膜の興奮・骨格筋の収縮様式・筋長と張力・筋収縮のエネルギー・筋の熱発生・筋電図・平滑筋・心筋
14	16. 感覚の生理学	感覚の種類・感覚の一般的性質・体性感覚（皮膚感覚・深部感覚）・内臓感覚・嗅覚と味覚・聴覚・視覚・前庭感覚
15	統合教育科目Ⅱ	総復習
16	統合教育科目Ⅱ	総復習
17		前期末試験
18	統合教育科目Ⅱ	総復習
19	統合教育科目Ⅱ	総復習
20	統合教育科目Ⅱ	生理学Ⅲ総括

令和2年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	統合教育科目Ⅱ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科
4. 対象学年・対象学期	第2学年・通年
5. 単位数	4単位
6. 担当講師	山道 祥郎、天貝 裕地、濱津 慶子
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	柔道整復師に必要な知識の向上を図る
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、携帯操作厳禁
11. 教科書	解剖学、生理学
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 年間講義スケジュール

月	単 元	概 要
4月		各分野におけるまとめと復習
5月		各分野におけるまとめと復習
6月		各分野におけるまとめと復習
7月		各分野におけるまとめと復習
8月		各分野におけるまとめと復習 前期末試験
9月		各分野におけるまとめと復習
10月		各分野におけるまとめと復習
11月		各分野におけるまとめと復習
12月		各分野におけるまとめと復習 後期末試験
1月		各分野におけるまとめと復習
2月		各分野におけるまとめと復習
3月		各分野におけるまとめと復習

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	保健医療福祉
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	宮澤 忠蔵、國分 美和子
7. 授業形式	教科書に従い作成した配布資料をプロジェクター映写して講義を行う。同時に「重要項目」を講義の進行状況に従って学生にまとめさせる。
8. 授業の目標	基本的な内容は全員が理解把握できるようにし、詳細な事項については、自主的に学習できる手段を与える講義になるよう努める。また、国家試験を視野に国家試験形式の問題に対応できるようにする。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	講義中のノート、配布資料、重要項目は学生自身が工夫し整理整頓して保管すること。
11. 教科書	衛生学・公衆衛生学 改訂第6版（南江堂）
12. 副読本	なし
13. 推薦参考図書	国民衛生の動向 2020/2021（厚生統計協会）

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第1章 衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動 第2章 健康の概念（中項目A～C）	概論。 衛生学・公衆衛生学の歴史、衛生学・公衆衛生学の学問領域、学習する意義について把握する。また、健康とは何か、WHO憲章で把握する。
2	第3章 疾病予防と健康管理	健康から疾病が発病するまでの経過を知ることにより、その段階に合わせた予防の基本的な考え方や手法を把握する。
4	第8章 母子保健	乳児・幼児における健康状況は母体の健康状態が深く影響する。そこで、母子の健康指標と現状、母子保健対策や母子保健法について把握する。
6	第9章 学校保健	学童期においては心身ともに著しく発達する時期であり、学校は学校教育の特有の場であることを踏まえ、学校教育法・学校保健安全法、学校保健活動の内容と組織、学童期の健康状況を把握する。
8	第10章 産業保健	労働者は特殊な作業環境に置かれる場合も少なくない。その作業環境の影響による種々の職業病罹患の危険性にさらされている。そこで、職業病の概略と現状、労働安全衛生法、産業保健対策について把握する。
10	第2章 健康の概念（中項目D）	集団の健康を把握するための健康指標とその意味、および現状を把握する。
12	第11章 成人・高齢者保健	人口の高齢化に伴い、成人・高齢者の生活習慣病の発症が医療費増大や介護など社会問題の原因となっている。そこで、生活習慣病の現状と予防、さらに老後のQOLを向上させるための高齢者保健・福祉対策について把握する。合わせて医療保険制度（国民医療費の動向を含む）や介護保険制度についても把握する。
13	第14章 衛生行政と保健医療の制度	
14	第12章 精神保健	精神障害者を社会から隔離する傾向にあったが、人権を尊重し、社会復帰できる体制へと方向転換されてきた。精神障害（精神の病気）の概略と現状、精神保健・福祉対策について把握する。
15	振り返り授業	各章に関連する国家試験過去問題を解き、解説でポイントを復習する。
16	振り返り授業	各章に関連する国家試験過去問題を解き、解説でポイントを復習する。
17		前期末試験
18	振り返り授業	各章に関連する国家試験過去問題を解き、解説でポイントを復習する。
19	振り返り授業	各章に関連する国家試験過去問題を解き、解説でポイントを復習する。
20	振り返り授業	各章に関連する国家試験過去問題を解き、解説でポイントを復習する。

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	関係法規
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	白江 誠
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	関係法規を理解し国家試験及び卒後役立つように理解すること
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	教科書をしっかり読む。遅刻・欠席をしない。私語、居眠り厳禁
11. 教科書	『関係法規』 社団法人全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	序論	1.法の意義 2.法の体系 3.柔道整復師及び柔道整復に関する法規 4.柔道整復お患者の権利 5.医療過誤とリスクマネジメント
2	第1章 総則、第2章 免許	1.柔道整復師法の目的 2.定義 1.柔道整復師免許 2.免許を受けるための要件 3.免許の申請
3	第2章 免許	4.柔道整復師名簿 5.免許の取消し 6.柔道整復師免許証及び柔道整復師免許証明書 7.免許の書き換え交付
4	第2章 免許 第3章 柔道整復師国家試験 第4章 業務	8.免許証の再交付 9.免許証又は免許証明書の返納及び提出 1.試験の実施 2.合格証書と合格証明書 1.業務の禁止
5	第4章 業務	2.業務の範囲 3.秘密を守る義務 4.都道府県知事の指示 5.緊急時における厚生労働大臣の事務執行
6	第5章 施術所	1.施術所の届出 2.施術証の構造設備等 3.施術所に対する監督
7	第6章 雑則 第7章 罰	1.広告 1.罪刑法定主義
8	第7章 罰則 第8章 指定試験機関及び指定試験機関	2.柔道整復師法に定められる罰則 3.両罰規定 1.指定登録機関 2.指定試験機関
9	関係法規	1.医師法 2.歯科医師法 3.保健師助産師看護師法
10	関係法規	4.診療放射線技師法 5.臨床検査技師等に関する法律 6.理学療法士及び作業療法士法
11	関係法規、医療法	11.救急救命士法 12.歯科衛生士法 13.歯科技工士法 14.薬剤師法 1.総則 2.医療に関する選択の支援等 3.医療安全の確保
12	医療法	4.病院、診療所及び助産所
13	社会福祉関係法規 社会保険関係法	1.社会福祉法 2.生活保護法 3.児童福祉法 4.身体障害者福祉法 5.知的障害者福祉法 6.老人福祉法 7.障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律 1.健康保険法
14	社会保険関係法規 その他の関係法規	2.国民健康保険法 3.高齢者の医療の確保に関する法律 4.介護保険法 1.個人情報保護に関する法律
15	振り返り授業	復習
16	振り返り授業	復習
17		前期末試験
18	振り返り授業	テスト解説
19	振り返り授業	まとめ
20	振り返り授業	まとめ

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	柔道Ⅲ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	後藤 陽正
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	認定実技審査 柔道実技を習得する。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	素早く着替え、準備運動を行うこと。大怪我に繋がる為、真剣に取り組むこと
11. 教科書	柔道Ⅲ
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	形、受け身の復習	前方回転受け身、浮落、背負投、浮腰、払腰、送足払、支釣込足の復習1
2	形、受け身の復習	前方回転受け身、浮落、背負投、浮腰、払腰、送足払、支釣込足の復習2
3	新技の習得	受け身、形の復習、肩車、釣込腰、内股の習得1
4	新技の習得	受け身、形の復習、肩車、釣込腰、内股の習得2
5	新技の習得	受け身、形の復習、肩車、釣込腰、内股の習得3
6	新技の習得	受け身、形の復習、肩車、釣込腰、内股の習得4
7	約束乱取りの復習	前方回転受け身、形の復習、約束乱取りの習得1
8	約束乱取りの復習	前方回転受け身、形の復習、約束乱取りの習得2
9	約束乱取りの復習	前方回転受け身、形の復習、約束乱取りの習得3
10	認定実技審査項目の習得	審査概要の説明と全体練習
11	認定実技審査項目の習得	全体通し練習（礼法、受け身、形、約束乱取り）1
12	認定実技審査項目の習得	全体通し練習（礼法、受け身、形、約束乱取り）2
13	認定実技審査項目の習得	全体通し練習（礼法、受け身、形、約束乱取り）3
14	認定実技審査項目の習得	全体通し練習（礼法、受け身、形、約束乱取り）4
15	試験前対策	全体通し練習（礼法、受け身、形、約束乱取り）5
16	試験前対策	全体通し練習（礼法、受け身、形、約束乱取り）6
17	前期末試験	前期末試験
18	柔道について	柔道の概要（発祥からルールまで）1
19	柔道について	柔道の概要（発祥からルールまで）2
20	認定実技審査項目の復習	全体通し練習（礼法、受け身、形、約束乱取り）7

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	柔道整復術の適応
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	福嶋稔 橋本祐之
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	とくに重要項目を理解する
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	私語を慎む
11. 教科書	施術の適応と医用画像の理解
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	P1～17	・柔道整復術の適否を考える
2	P17～36	・損傷に類似した症状を示す疾患 ・血流障害を伴う損傷 ・末梢神経損傷を伴う損傷
3	P37～48	・脱臼骨折 ・外出血を伴う損傷
4	P49～66	・病的骨折および脱臼 ・意識障害を伴う損傷 ・脊髄損傷を伴う損傷
5	P67～81	・呼吸運動障害を伴う損傷 ・内臓損傷の合併が疑われる損傷 ・高エネルギー外傷
6	P83～108	・医用画像の理解
7	P108～121	・医用画像の理解
8	P121～137	・医用画像の理解
9	P1～17	・柔道整復術の適否を考える
10	P19～29	・損傷に類似した症状を示す疾患 ・血流障害を伴う損傷 ・末梢神経損傷を伴う損傷
11	P31～45	・末梢神経損傷を伴う損傷 ・脱臼骨折 ・外出血を伴う損傷
12	P47～63	・外出血を伴う損傷 ・病的骨折および脱臼 ・意識障害を伴う損傷
13	P65～75	・脊髄損傷を伴う損傷 ・呼吸運動障害を伴う損傷 ・内臓損傷の合併が疑われる損傷
14		総復習まとめ
15	振り返り授業	総復習まとめ
16		前期末試験
17	振り返り授業	前期試験解説
18	振り返り授業	総復習まとめ
19	振り返り授業	総復習まとめ
20	振り返り授業	復習問題・解説

令和2年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	統合教育科目IX
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科
4. 対象学年・対象学期	第2学年・通年
5. 単位数	6単位
6. 担当講師	後藤 陽正、金子 和央、志田 龍太
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	柔道整復師に必要な知識の向上を図る
9. 成績評価	期末試験の結果に中間評価試験の結果を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	私語、居眠り、携帯操作厳禁
11. 教科書	柔道整復学・理論編、解剖学、生理学
12. 副読本	柔道整復学・実技編標準整形外科学
13. 推薦参考図書	

14. 年間講義スケジュール

月	単 元	概 要
4月		各分野におけるまとめと復習
5月		各分野におけるまとめと復習
6月		各分野におけるまとめと復習
7月		各分野におけるまとめと復習
8月		各分野におけるまとめと復習 中間評価試験
9月		各分野におけるまとめと復習
10月		各分野におけるまとめと復習
11月		各分野におけるまとめと復習
12月		各分野におけるまとめと復習 後期末試験
1月		各分野におけるまとめと復習
2月		各分野におけるまとめと復習
3月		各分野におけるまとめと復習

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	応用実技Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院8年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	齊藤 慎吾
7. 授業形式	実技がメインとなる（基礎知識を復習する座学含む）
8. 授業の目標	卒業後に生かせるように、基礎的な技術を習得する。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	実技の授業なので私語がしやすいので、余計な私語は慎むこと。
11. 教科書	柔道整復学・理論編、実技編（南江堂）
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	標準整形外科学

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	①鎖骨定期的骨折	基本知識と診察および整復について
2	②上腕骨外科頸外転型骨折	〃
3	③コーレス骨折	〃
4	①②③ 復習	診察および整復について
5	④鎖骨骨折	固定法について
6	〃	〃
7	⑤上腕骨骨幹部骨折	固定法について
8	〃	〃
9	⑥コーレス骨折	固定法について
10	〃	〃
11	⑦第5指中手骨頸部骨折	固定法について
12	〃	〃
13	⑧下腿骨骨幹部骨折	固定法について
14	⑨アキレス腱断裂	固定法について
15	④⑤⑥⑦⑧⑨復習	固定法について
16	足関節外側靭帯損傷	診察および検査
17		前期末試験
18	足関節外側靭帯損傷	固定法について
19	全履修範囲の復習	診察および整復、検査 固定法について
20	〃	〃

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	応用実技Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目（接骨院6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	鈴木 英明
7. 授業形式	実技および講義
8. 授業の目標	柔道整復術の対象疾患に対する診察から治療までの理論及び実技の修得
9. 成績評価	出欠席状況、2020年度認定実技審査、期末試験、履修態度を含み総合評価する
10. 受講上の注意	遅刻、無断欠席をしない。私語、居眠り厳禁
11. 教科書	【柔道整復学・理論編】南江堂、【柔道整復学・実技編】南江堂
12. 副読本	標準整形外科学（医学書院）
13. 推薦参考図書	上肢骨折の保存療法、柔道整復学上肢・体幹編、下肢・総論編（医歯薬出版）

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	1. 肩鎖関節上方脱臼	オリエンテーション・診察および整復法①
2		診察および整復法②
3		テーピングによる固定法
4	2. 肩関節前方脱臼	診察および整復法①
5		診察および整復法②
6		包帯と三角巾による固定法（厚紙副子）
7	3. 肘関節後方脱臼	診察および整復法①
8		診察および整復法②
9		金属副子による固定法（クラーメル）
10	4. 肘内障	診察および整復法①
11	5. 肩腱板損傷	診察および徒手検査法（ペインフルアークサイン・ドロップアームサイン）
12	6. 上腕二頭筋長頭腱損傷	診察および徒手検査法（スピードテスト・ヤーガソンテスト）
13	7. 手第2指PIP関節背側脱臼	アルミ副子背側固定法
14	8. 大腿部損傷	ハムストリングス損傷の診察および徒手検査
15		大腿四頭筋打撲の診察および徒手検査
16	9. 膝関節部損傷	膝関節側腹靭帯損傷の診察および徒手検査
17		前期末試験
18		膝関節内側側副靭帯の固定（Xサポートテープ）
19		膝関節十字靭帯損傷の診察および徒手検査
20		膝関節半月板損傷の診察および徒手検査

令和2年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床実習Ⅳ
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	齊藤慎吾、鈴木英明、伊東秀高、金子和央、志田龍太
7. 授業形式	実習形式
8. 授業の目標	医療人としての自覚を育て、自ら考え自ら行動できる人材を育てる。
9. 成績評価	出欠席、実習態度、その他評価項目に基づき評価する。
10. 受講上の注意	遅刻欠席厳禁、私語、携帯操作厳禁、服装及び準備物を事前に確認
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 年間講義スケジュール

月	単 元	概 要
4月		オリエンテーション 診療室のメンテナンス ロールプレイ 診察・検査と処置 再来患者の評価と後療法
5月		
6月		
7月		
8月		

令和2年度 講義計画書（通年）

1. 科目名	臨床研修
2. 科目分類	応用分野
3. 対象学科	柔整科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	伊東 秀高 他
7. 授業形式	座学および実技
8. 授業の目標	海外研修を通し、人の体の仕組みを理解し柔道整復師に必要な知識を体験・体感する。
9. 成績評価	出席状況、受講態度、履修状況、試験成績などを考慮し評価する。
10. 受講上の注意	積極的に授業に参加し知識の向上を図る。
11. 教科書	柔整学理論編、解剖学
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		胸背部の骨・筋・血管・神経
2		上肢の骨・筋・血管・神経
3		上・下肢の骨・筋・血管・神経
4		下肢の骨・筋・血管・神経
5		頭部の骨・筋・血管・神経
6		最終試験